



## 《会計・税務の知識》 ベンチャー企業経営の基本 ～事業計画策定の基礎・貸借対照表編～

ベンチャー企業経営にとって、成長の戦略を数値に落とし込んだものが事業計画です。今後どのような成長を遂げていくのか、目標を立てて、実行して、計画を見直して、また実行していく基盤となります。

以前、損益計算書についてご説明させていただきましたので、今回はもう一方の財務諸表である、貸借対照表の計画の立て方について、簡単な例を用いて考え方をご説明致します。なお、損益計算書編は2011/6/30号です。

### 1. 貸借対照表とは

まず、貸借対照表の構造について見てみます。

貸借対照表

資産	負債
	純資産(資本)

右側の負債・純資産が会社のお金がどこから入って来たか(調達源泉)を示しており、左側の資産が入ってきたお金がどのように運用されているか(運用状況)を示しています。そして、資産=負債+純資産が成り立ちます。

### 2. 科目ごとの計画値の算出方法

計画貸借対照表の作成は、科目ごと算出方法にいくつかのパターンがあります。代表的な科目とその計画値算出方法は以下のようになります。

科目	算出方法
現預金	差額により算出
売掛金	回収期間(売掛金残高÷売上高)より算出
棚卸資産	回転期間(棚卸資産残高÷原価)より算出
固定資産	設備計画により算出
その他資産(有価証券、貸付金など)	投資計画等により算出
買掛金	支払期間(買掛金残高÷原価)より算出
借入金	借入・返済計画より算出
資本金	増資等の計画より算出
利益剰余金	計画損益計算書より算出

算出方法のパターンとしては、①回転期間など一定の割合により算出するもの(売掛金、棚卸資産、買掛金)、②投資計画などの計画により算出するもの(固定資産、その他資産、借入金、資本金)、③差額などにより算出するもの(現預金、利益剰余金)があることがわかります。

### 3. 実際に計画貸借対照表を作成してみる

前期実績と以前作成しました計画損益計算書から計画貸借対照表を作成します。

～設例～

#### ◎前期貸借対照表

科目	金額	科目	金額
現預金	1,880	買掛金	240
売掛金	1,000	短期借入金	1,000
商品	600	資本金	1,000
		繰越利益	1,240
資産合計	3,480	負債・純資産合計	3,480

#### ◎前期及び計画損益計算書

	前期	計画
売上高	10,000	11,750
原価	6,000	7,050
差引粗利	4,000	4,700
販管費	3,000	3,000
支払利息	200	200
差引利益	800	1,500

その他条件：借入返済は1,000を予定

科目ごとの計画値を算出し、計画貸借対照表を作成します。

#### ①回転期間など一定の割合で算出

科目	計画損益計算書より(①)	割合(②)	計画値(①×②)
売掛金	売上高：11,750	10% (1,000÷10,000)	1,175
商品	原価：7,050	10% (600÷6,000)	705
買掛金	原価：7,050	4% (240÷6,000)	282

#### ②計画によって算出

短期借入金 1,000-1,000(返済予定)=0  
資本金 変動なし→1,000

#### ③差額などにより算出

繰越利益 1,240+1,500=2,740  
現預金 上記資産合計と負債・純資産合計との差→2,142

#### ◎計画貸借対照表

科目	金額	科目	金額
現預金	2,142	買掛金	282
売掛金	1,175	短期借入金	0
商品	705	資本金	1,000
		繰越利益	2,740
資産合計	4,022	負債・純資産合計	4,022

今回は計画貸借対照表作成について、非常に簡単な例で説明しました。前回の損益計算書と同様に、実際の作成はより複雑になりますが、基本的な考え方は今回ご説明したようなものになります。

次回もベンチャー企業経営に欠かせない、会計・税務に関するトピックをわかりやすくご説明したいと思いますので、よろしくお願ひします。

(担当：豊山 忠明)